

# 経済情勢

## (3月の経済指標を中心に)

全国、中国ともに、景気は持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。先行きについては、国内外の感染症の動向や供給制約、原材料価格の高騰、ウクライナ情勢などによる経済活動への影響が懸念される。

### (全国)

|      |                      |
|------|----------------------|
| 個人消費 | 持ち直しの動きがみられる         |
| 住宅投資 | 新設住宅着工戸数（3月）は前年を上回った |
| 設備投資 | 機械受注額（3月）は前年を上回った    |
| 公共投資 | 公共工事請負額（3月）は前年を下回った  |
| 輸出   | 輸出金額（3月）は前年を上回った     |
| 生産動向 | 概ね横ばいで推移している         |
| 雇用情勢 | 一部に持ち直しの動きがみられる      |

### (中国)

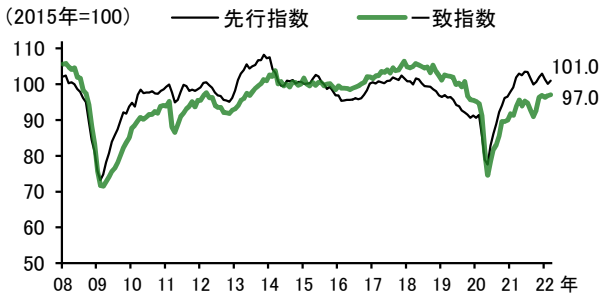
|      |                      |
|------|----------------------|
| 個人消費 | 持ち直しの動きがみられる         |
| 住宅投資 | 新設住宅着工戸数（3月）は前年を上回った |
| 公共投資 | 公共工事請負額（3月）は前年を下回った  |
| 輸出   | 輸出金額（3月）は前年を上回った     |
| 生産動向 | 概ね横ばいで推移している         |
| 雇用情勢 | 一部に持ち直しの動きがみられる      |

## 1. 景気動向指数(CI)(3月)

(全国) 一致指数は2カ月連続で上昇している。  
 (中国) 一致指数は5カ月ぶりに低下している。

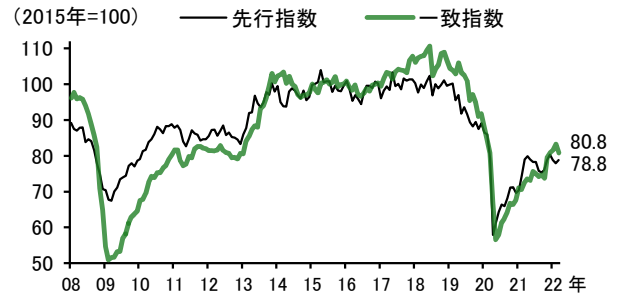
### (全国)

- ・一致指数は97.0(前月差+0.2ポイント)と2カ月連続で上昇。
- ・先行指数は101.0(同+0.9ポイント)と3カ月ぶりに上昇。



### (中国)

- ・一致指数は80.8(前月差▲2.5ポイント)と5カ月ぶりに低下。
- ・先行指数は78.8(同+0.9ポイント)と3カ月ぶりに上昇。



|               |     |
|---------------|-----|
| C I 一致指数(前月差) | 0.2 |
|---------------|-----|

| 指標名            | 寄与度   |
|----------------|-------|
| 商業販売額(小売業)     | 0.20  |
| 投資財出荷指数(除輸送機械) | 0.19  |
| 有効求人倍率(除学卒)    | 0.16  |
| 鉱工業生産指数        | 0.05  |
| 営業利益(全産業)      | 0.02  |
| 鉱工業用生産財出荷指数    | 0.01  |
| 輸出数量指数         | 0.00  |
| 労働投入量指数(調査産業計) | ▲0.01 |
| 商業販売額(卸売業)     | ▲0.14 |
| 耐久消費財出荷指数      | ▲0.25 |

|               |      |
|---------------|------|
| C I 一致指数(前月差) | ▲2.5 |
|---------------|------|

| 指標名          | 寄与度   |
|--------------|-------|
| 最終需要財出荷指数    | ▲1.06 |
| 鉱工業生産指数      | ▲0.86 |
| 全産業業況判断D I   | ▲0.27 |
| 生産財出荷指数      | ▲0.26 |
| 所定外労働時間(製造業) | ▲0.04 |
| 通関輸入額        | ▲0.02 |
| 有効求人倍率       | 0.02  |

|               |     |
|---------------|-----|
| C I 先行指数(前月差) | 0.9 |
|---------------|-----|

| 指標名             | 寄与度   |
|-----------------|-------|
| 日経商品指数(42種総合)   | 0.65  |
| 新規求人数(除学卒)      | 0.57  |
| 最終需要財在庫率指数(逆)   | 0.41  |
| 新設住宅着工床面積       | 0.20  |
| 中小企業売上げ見通しD I   | 0.16  |
| マネーストック(M2)     | ▲0.07 |
| 東証株価指数          | ▲0.13 |
| 鉱工業用生産財在庫率指数(逆) | ▲0.26 |
| 消費者態度指数         | ▲0.61 |
| 実質機械受注(製造業)     |       |
| 投資環境指数(製造業)     |       |

|               |     |
|---------------|-----|
| C I 先行指数(前月差) | 0.9 |
|---------------|-----|

| 指標名               | 寄与度   |
|-------------------|-------|
| 新設住宅着工戸数          | 0.97  |
| 建築物着工床面積          | 0.92  |
| 実質百貨店販売額(前年比)     | 0.79  |
| 銀行貸出残高(前年比)       | 0.64  |
| 生産財生産指数           | ▲0.05 |
| 中小企業業況判断D I 次期見通し | ▲0.07 |
| 鉱工業製品在庫率指数(逆)     | ▲0.38 |
| 消費者態度指数           | ▲0.88 |
| 新規求人倍率            | ▲1.01 |

注：1. 景気動向指数(CI)は景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としている。  
 2. 景気動向指数とは、生産、雇用など重要かつ景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の実況把握および将来予測に資するために作成されたもので、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3本の指数がある。  
 3. 全国と中国地域の景気動向指数は、採用している経済指標が異なるため、水準や前月差などを一概に比較することは適切ではない。  
 資料：全国は内閣府「景気動向指数(速報)」、中国は当社で作成

## 2. 個人消費 (3月)

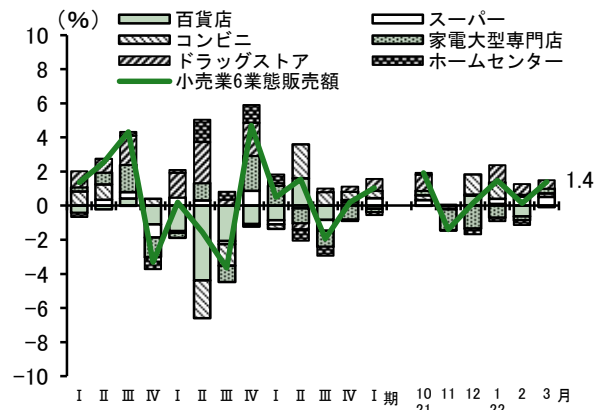
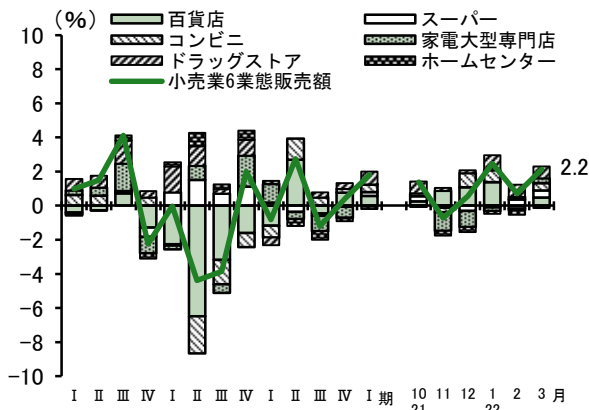
全国、中国ともに、持ち直しの動きがみられる。

### ● 小売業6業態販売額 [対前年伸び率]

(全国) ドラッグストア、百貨店などが増加し、4カ月連続で前年比プラス(前年同月比+2.2%)。新型コロナウイルス感染症の影響は残っているものの、まん延防止等重点措置\*の全面解除に伴い、月末にかけて、繁華街やオフィス街等で人出の増加がみられた。

(中国) スーパー、ドラッグストアなどが増加し、4カ月連続で前年比プラス(前年同月比+1.4%)。全国と同様、感染症の影響は残っているものの、まん延防止等重点措置\*の全面解除に伴い、月末にかけて、繁華街やオフィス街等で人出の増加がみられた。

※実施期間：全国(いずれかの都道府県)1/9-3/21、島根県1/27-2/20、岡山県1/27-3/6、広島県1/9-3/6、山口県1/9-2/20



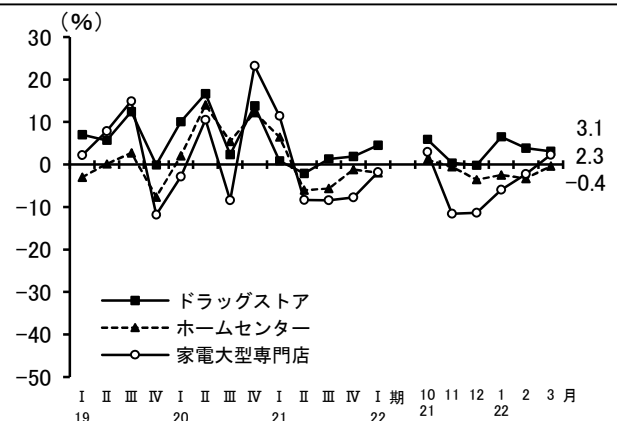
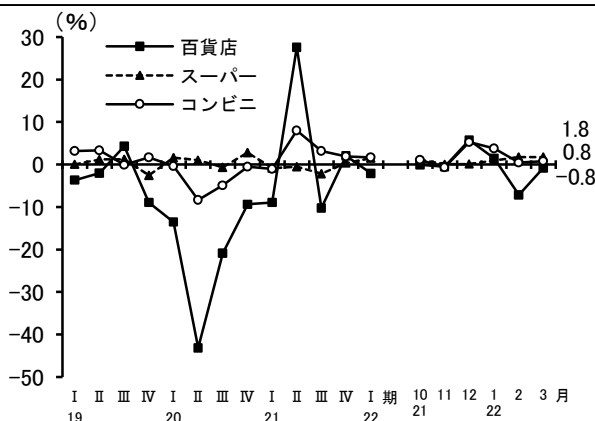
注：1. 全店舗ベース 2. 小売業6業態は、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンター  
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

### ○ 百貨店・スーパー・コンビニエンスストア販売額 [対前年伸び率]

### ○ ドラッグストア・ホームセンター・家電大型専門店販売額 [対前年伸び率]

(中国)  
 ・百貨店は、感染症の影響が残る中で、2カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲0.8%)も、衣料品に持ち直しの動きがみられ、減少幅は前月から縮小した。  
 ・スーパーは、中食需要の高まりや相場高等から、総菜や生鮮食品などの飲食料品が増加し、6カ月連続で前年比プラス(同+1.8%)。  
 ・コンビニは、感染症の影響が残る中で来客数が減少したものの、弁当などの日配食品や冷凍食品等が堅調に推移し、4カ月連続で前年比プラス(同+0.8%)。

(中国)  
 ・ドラッグストアは、新店および改装効果等により飲食料品などが増加し、3カ月連続で前年比プラス(前年同月比+3.1%)。  
 ・ホームセンターは、自転車などに良い動きがみられたものの、前年の巣ごもり需要の反動等でDIY用品などが減少し、5カ月連続で前年比マイナス(同▲0.4%)。  
 ・家電大型専門店は、買い替え需要等により、省エネ・高性能タイプのエアコンや冷蔵庫などが好調に推移し、5カ月ぶりに前年比プラス(同+2.3%)。

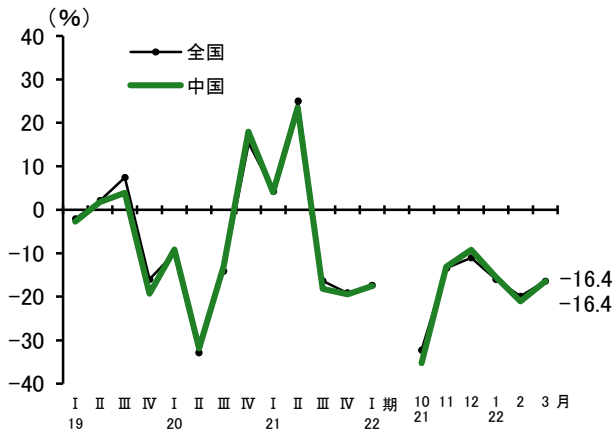


注：全店舗ベース  
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

● 新車登録・届出台数(乗用車) [対前年伸び率]

(全国) 軽、普通、小型乗用車がいずれも減少し、9カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲16.4%)。半導体不足の影響が長引いているほか、感染拡大による部材供給不足等の影響もあって、新車の供給が滞っている。

(中国) 全国と同様の要因により、軽、普通、小型乗用車がいずれも減少し、9カ月連続で前年比マイナス(同▲16.4%)。

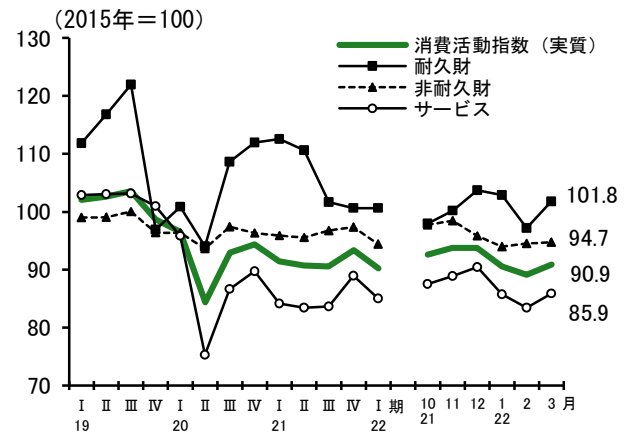


資料：中国運輸局「新車登録・届出状況」、(一社)全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売統計」

● 消費活動指数(実質)

(全国) 消費活動指数(季節調整済)は90.9(前月比+1.9%)と3カ月ぶりに前月を上回った。

- 耐久財は、自動車供給の停滞等の影響が続いている。
- 非耐久財は、飲食料品が底堅く推移している。
- サービスは、感染者数の減少やまん延防止等重点措置の解除に伴い、交通などを中心に回復の動きがみられる。



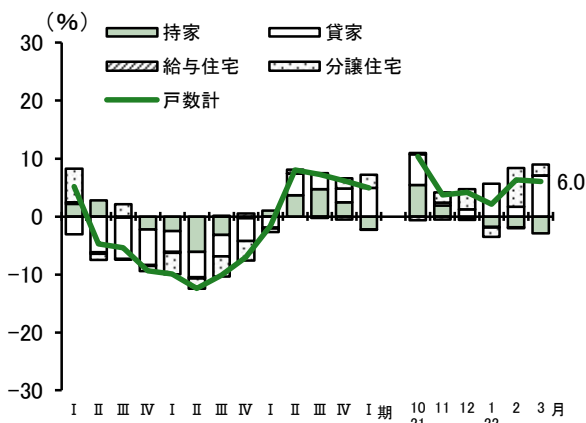
注：1. 季節調整済指数  
2. 消費活動指数の形態別ウエイトは、耐久財8.9、非耐久財40.5、サービス50.7  
資料：日本銀行「消費活動指数」

3. 住宅投資(3月)

新設住宅着工戸数は、全国、中国ともに前年を上回った。

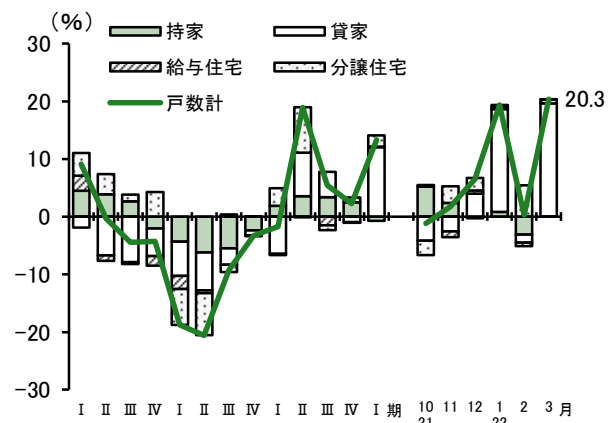
● 新設住宅着工戸数 [対前年伸び率]

(全国) 持家が減少したものの、貸家、分譲住宅、給与住宅が増加し、13カ月連続で前年比プラス(前年同月比+6.0%)。



注：持家、貸家、給与住宅、分譲住宅は、新設住宅着工戸数の対前年伸び率に対する利用関係別寄与度  
資料：国土交通省「建築着工統計調査報告」

(中国) 貸家、給与住宅が高い伸びとなったほか、持家、分譲住宅が前年を若干上回り、5カ月連続で前年比プラス(前年同月比+20.3%)。



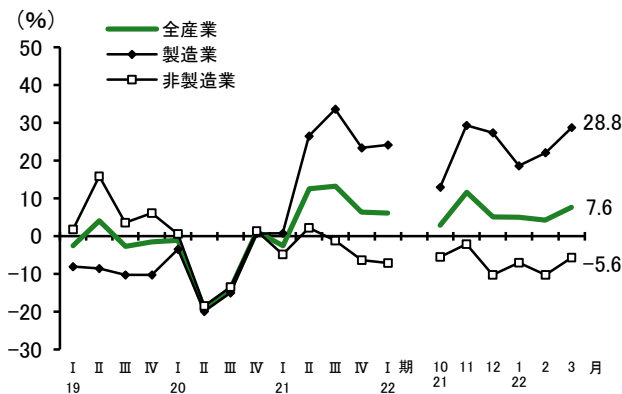
#### 4. 設備投資・公共投資 (3月)

機械受注 (全国) は、非製造業が減少したものの、製造業が増加し、前年を上回った。  
公共工事請負額は、全国、中国ともに前年を下回った。

##### ● 機械受注額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 12 カ月連続で前年比プラス (前年同月比+7.6%)。
- ・ 製造業 (同+28.8%) は、非鉄金属が大幅に増加したほか、電気機械などが増加し、13 カ月連続で前年比プラス。
- ・ 非製造業 (同▲5.6%) は、運輸業・郵便業、情報サービス業などが減少し、7 カ月連続で前年比マイナス。



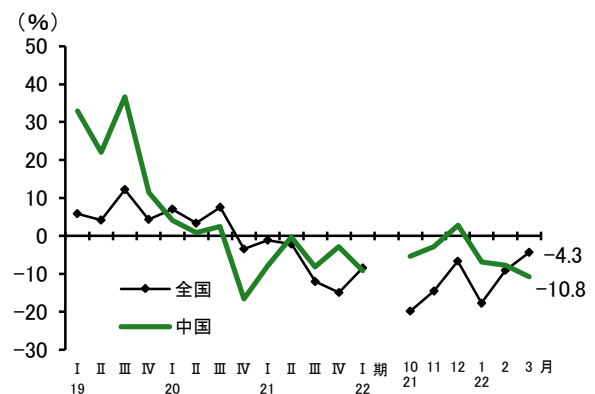
注：機械受注額は民需の合計であり、全産業、非製造業とも船舶・電力を除く数値

資料：内閣府「機械受注統計調査報告」、北海道建設業信用保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

##### ● 公共工事請負額 [対前年伸び率]

(全国) 地方公社、独立行政法人等からの発注が増加したものの、国、市区町村、都道府県からの発注が減少し、9 カ月連続で前年比マイナス (前年同月比▲4.3%)。

(中国) 独立行政法人等からの発注が増加したものの、県、国、市町村からの発注が減少し、3 カ月連続で前年比マイナス (同▲10.8%)。

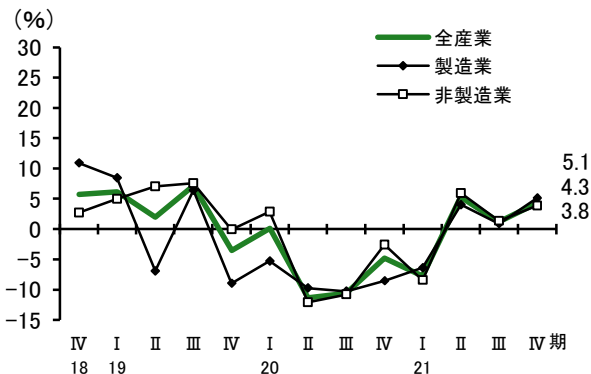


##### ● 法人企業統計 (2021年10-12月期)

設備投資額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 10-12 月期の設備投資額は、3 四半期連続の前年比プラス (前年同期比+4.3%)。
- ・ 製造業は3 四半期連続のプラス (同+5.1%)。
- ・ 非製造業は3 四半期連続のプラス (同+3.8%)。



注：1. 金融業・保険業を除くベース

2. ソフトウェア投資額を含む

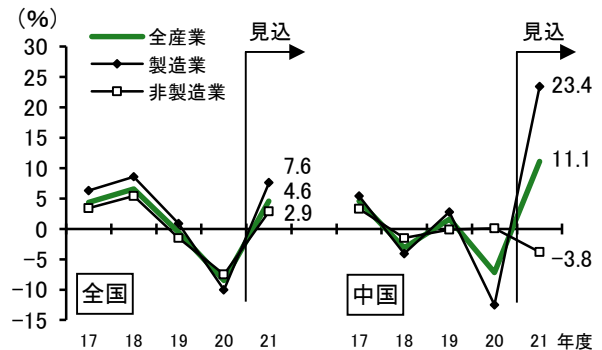
資料：財務省「法人企業統計」

##### ● 企業短期経済観測調査 (日銀短観 2022年3月調査)

設備投資額 [対前年伸び率]

(全国) 2021 年度の設備投資は、3 年ぶりに前年を上回る見込み (前年度比+4.6%)。製造業、非製造業ともにプラス。

(中国) 2021 年度の設備投資は、2 年ぶりに前年を上回る見込み (同+11.1%)。製造業がプラス、非製造業がマイナス。



注：1. 企業短期経済観測調査 (短観) は四半期ごとに公表されている

2. 土地投資額を含む、ソフトウェア投資額と研究開発投資額は含まない

資料：日本銀行「短観 (全国企業短期経済観測調査)」

日本銀行広島支店「企業短期経済観測調査結果の概要」

## 5. 輸出・輸入(3月)

輸出金額は、全国、中国ともに前年を上回った。

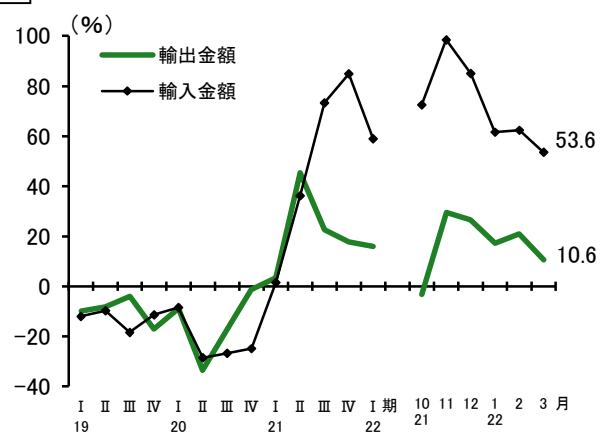
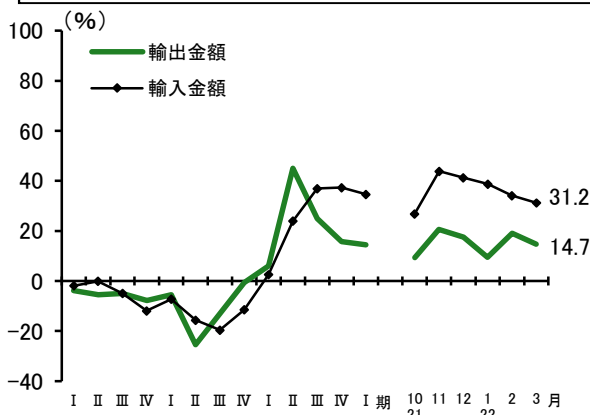
### ● 輸出・輸入金額 [対前年伸び率]

#### (全国)

- 輸出金額は13カ月連続で前年比プラス(前年同月比+14.7%)となり、1979年1月以降の過去最高を記録した。部材供給不足等の影響で自動車が増加したものの、半導体等製造装置が増加したほか、国際市況の上昇等により、鉄鋼、石油製品(軽油等)などが増加した。
- 輸入金額は14カ月連続で前年比プラス(同+31.2%)となり、1979年1月以降の過去最高を記録した。資源価格上昇や円安等の影響で、原油、石炭、液化天然ガスなどが増加した。

#### (中国)

- 輸出金額は5カ月連続で前年比プラス(前年同月比+10.6%)。全国と同様、部材供給不足等の影響で自動車が増加したものの、国際市況の上昇等により、鉄鋼、石油製品(軽油等)などが増加した。
- 輸入金額は14カ月連続で前年比プラス(同+53.6%)。全国と同様、資源価格上昇や円安等の影響で、石炭、原油、非鉄金属鉱などが増加した。

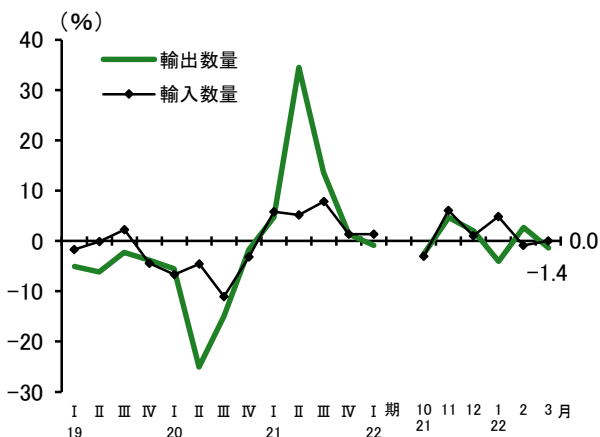


注: 1. 輸出金額、輸入金額は円ベース 2. 輸出確報; 輸入速報(9桁)  
資料: 財務省「貿易統計」、神戸税関「中国圏・各県貿易統計」

### ● 輸出・輸入数量 [対前年伸び率]

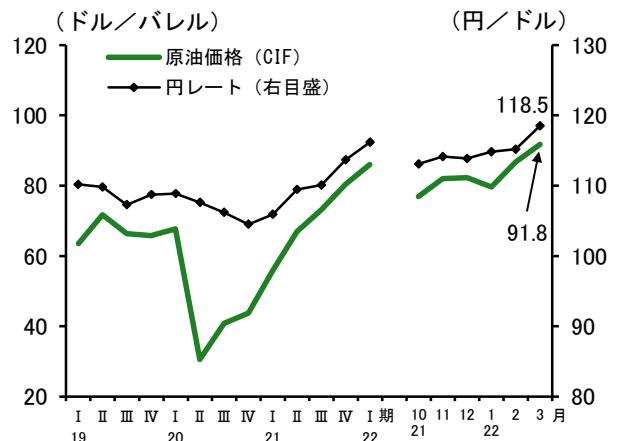
#### (全国)

- 輸出数量は2カ月ぶりに前年比マイナス(前年同月比▲1.4%)。
- 輸入数量は2カ月ぶりに前年比プラス(同+0.0%)。



### ● 原油価格・円レート

- 原油価格は91.8ドル/バレルと前年に比べ30.1ドル上昇(前月に比べ5.0ドル上昇)。
- 円レートは118.5円/ドルと前年に比べ9.9円の円安(前月に比べ3.3円の円安)。



注: 1. 輸出数量、輸入数量とも2015年=100とした指数 2. 輸出確報; 輸入速報(9桁) 3. 原油価格は全日本通関 CIF 価格  
4. 円レートは東京外国為替市場の銀行間中心レートの月中平均値  
資料: 財務省「貿易統計」



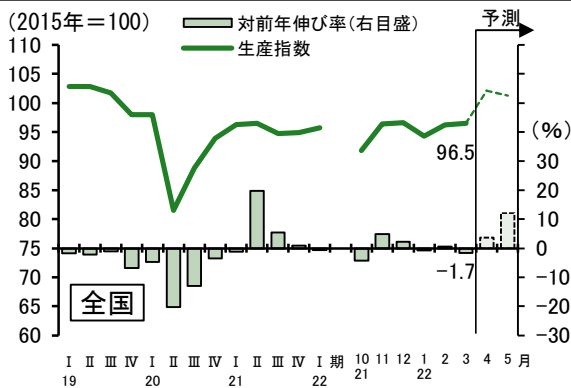
## 6. 生産動向 (3月)

全国、中国ともに、概ね横ばいで推移している。

### ● 鉱工業生産指数 (総合)

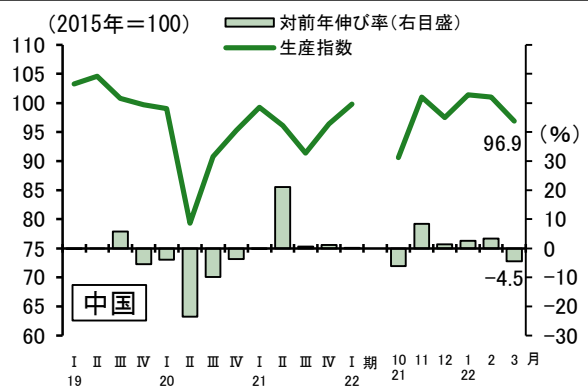
#### (全国)

- 生産指数 (季節調整済) は、自動車などが低下したものの、汎用・生産用・業務用機械などが上昇し、96.5 (前月比+0.3%) と2カ月連続で前月を上回った。自動車については、半導体などの部材供給不足に加え、福島県沖地震の影響もあって、生産が停滞した。
- 生産指数 (原指数) は前年同月比▲1.7%と2カ月ぶりのマイナスとなった。



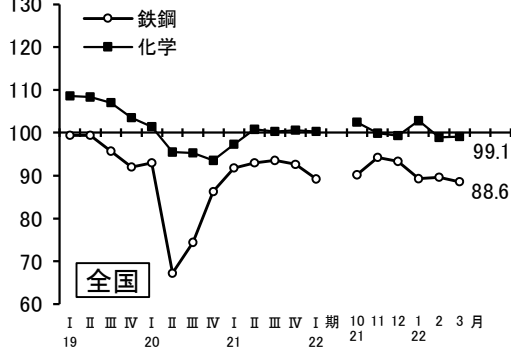
#### (中国)

- 生産指数 (季節調整済) は、鉄鋼などが上昇したものの、汎用・生産用・業務用機械、自動車などが低下し、96.9 (前月比▲4.1%) と2カ月連続で前月を下回った。自動車については、半導体などの部材供給不足等の影響で、生産が停滞した。
- 生産指数 (原指数) は前年同月比▲4.5%と5カ月ぶりのマイナスとなった。

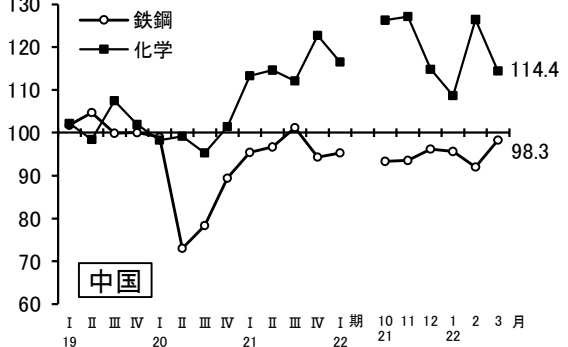


### ● 鉱工業生産指数 (素材)

(2015年=100)

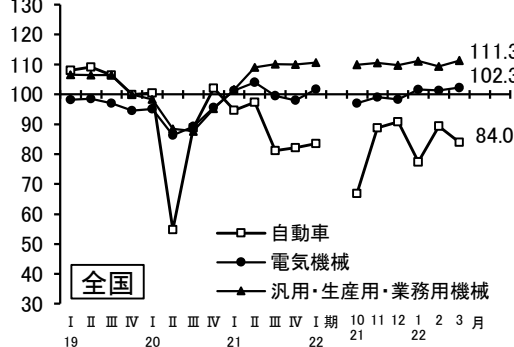


(2015年=100)

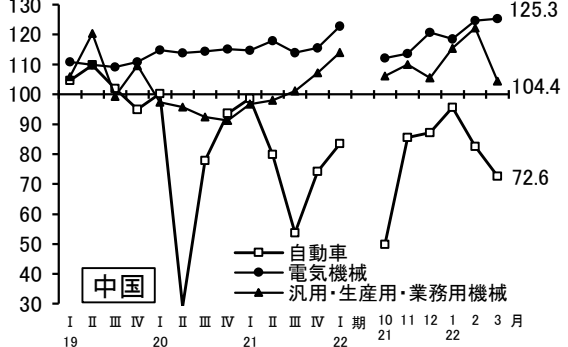


### ● 鉱工業生産指数 (機械)

(2015年=100)



(2015年=100)



注：1. 生産指数は季節調整済指数 2. 生産指数の対前年伸び率は原指数による 3. 予測値は「製造工業生産予測調査」の製造業の値を基に算出  
 4. 中国の最新月は速報値 5. 2018年12月確報分より、中国地域鉱工業指数の基準年が2010年から2015年に改定された  
 6. 「電気機械」は1995年基準の業種分類を適用 (電気機械工業、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業の合計)  
 7. 「汎用・生産用・業務用機械」は全国では2010年基準の業種分類を適用 8. 「自動車」は中国では「輸送機械工業 (自動車・同部品)」  
 資料：経済産業省「鉱工業 (生産・出荷・在庫) 指数確報」「製造工業生産予測調査」、中国経済産業局「中国地域鉱工業生産動向」

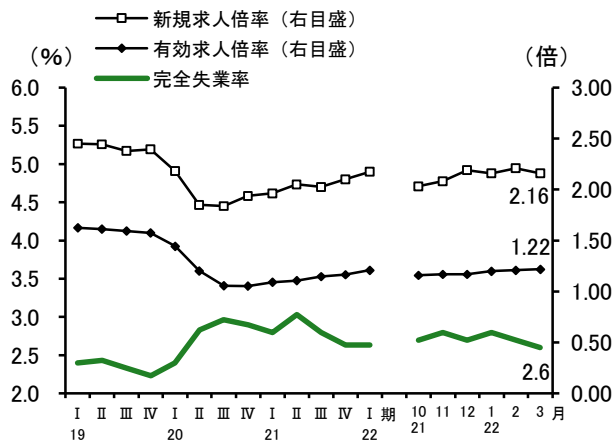
## 7. 雇用情勢(3月)

全国、中国ともに、一部に持ち直しの動きがみられる。

### ● 完全失業率、有効求人倍率、新規求人倍率

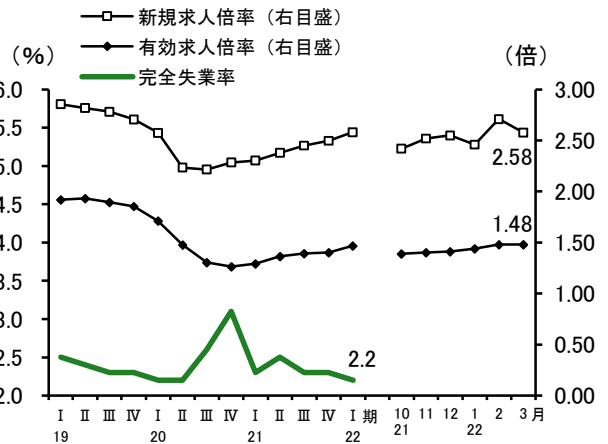
(全国)

- 完全失業率は2.6% (前月差▲0.1ポイント)と2カ月連続で低下した。
- 有効求人倍率は1.22倍 (同+0.01ポイント)と3カ月連続で上昇した。
- 新規求人倍率は2.16倍 (同▲0.05ポイント)と2カ月ぶりに低下した。

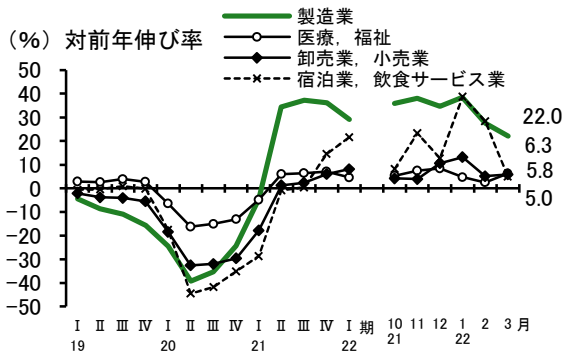


(中国)

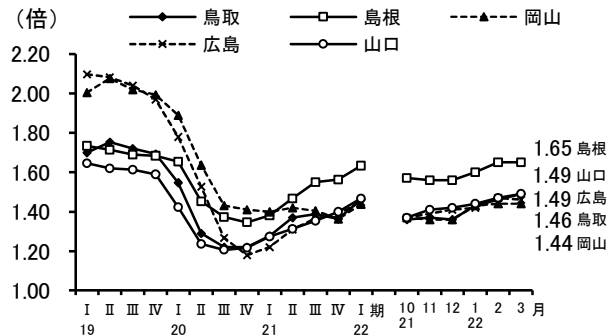
- 1-3月期の完全失業率(原数値)は2.2%と前年同期比で0.1ポイント低下した。
- 有効求人倍率は1.48倍 (前月差±0.00ポイント)と前月から横ばいとなった。
- 新規求人倍率は2.58倍 (同▲0.13ポイント)と2カ月ぶりに低下した。



主要産業における新規求人数の推移(全国)



有効求人倍率の推移(中国5県)



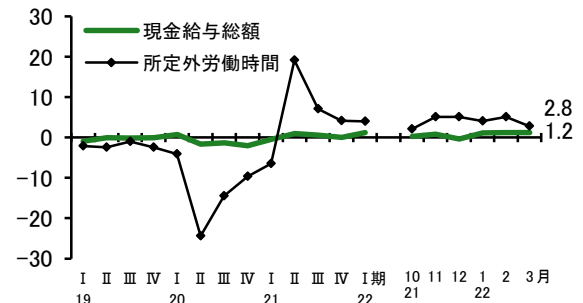
注: 完全失業率の月次、有効求人倍率、新規求人倍率は季節調整値、完全失業率の四半期は原数値  
資料: 総務省「労働力調査報告」、厚生労働省「職業安定業務統計」

### ● 現金給与総額、所定外労働時間

(全国)

- 現金給与総額は3カ月連続で前年比プラス(前年同月比+1.2%)。
- 所定外労働時間は、前年が感染症の影響で低水準だった反動等により、12カ月連続で前年比プラス(同+2.8%)。うち製造業は12カ月連続で前年比プラス(同+8.3%)。

(%) 対前年伸び率



注: 1. 事業所規模5人以上の指数(2020年=100)の対前年伸び率 2. 最新月は速報値  
資料: 厚生労働省「毎月勤労統計調査」



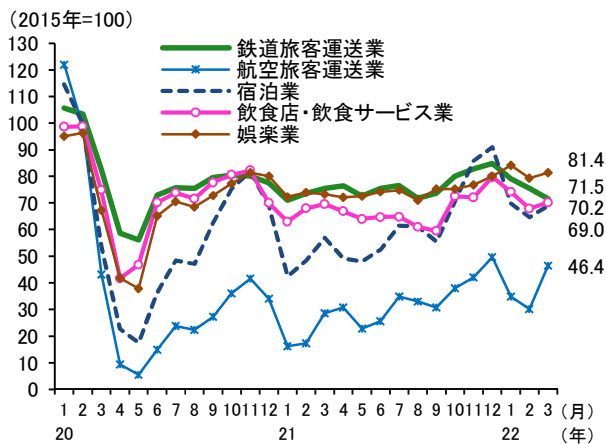
【参考】サービス消費の動向、景気ウォッチャー調査（家計動向関連）、新型コロナウイルス感染者数

サービス消費は、まん延防止等重点措置が3月21日をもって全面解除されるなど、感染症の影響が緩和する中で、3月以降、持ち直しの動きがみられる。

● 第3次産業活動指数

(全国)

- 消費に関連するサービス産業の動向をみると、3月は航空旅客輸送、宿泊、飲食、娯楽などの活動指数が上昇に転じた。まん延防止等重点措置が3月21日をもって全面解除されるなど、感染症の影響が緩和し、外出機会が増加したこと等から、対面型サービスの消費に持ち直しの動きがみられた。

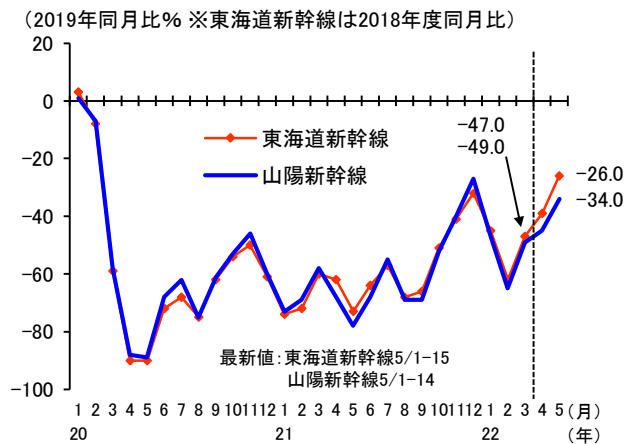


注：季節調整済指数  
資料：経済産業省「第3次産業活動指数」

● 新幹線利用者数 [2019年同月比※]

(東海道・山陽新幹線)

- 東海道・山陽新幹線の利用者数は、3月に入り感染状況が落ち着き、まん延防止等重点措置が3月21日をもって全面解除されたこと等から、3月、4月と回復の動きがみられた。
- ゴールデンウィーク期間は、3年ぶりに行動制限のない連休となったこと等から、コロナ禍前の水準には及ばないものの、利用者数は好調に推移した。

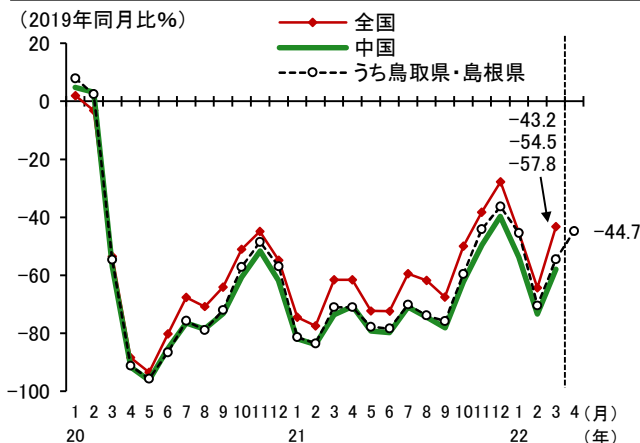


注：東海道新幹線は東京口、山陽新幹線は新大阪～西明石の利用状況  
資料：JR東海・JR西日本「月次ご利用状況」

● 国内航空旅客数 [2019年同月比]

(全国・中国)

- 国内航空旅客数は、新幹線利用者数と同様、3月に入り感染状況が落ち着き、まん延防止等重点措置が全面解除されたこと等から、全国・中国ともに、3月は回復の動きがみられた。
- 早期に公表される鳥取県・島根県の旅客数をみると、4月も回復の動きがみられた。

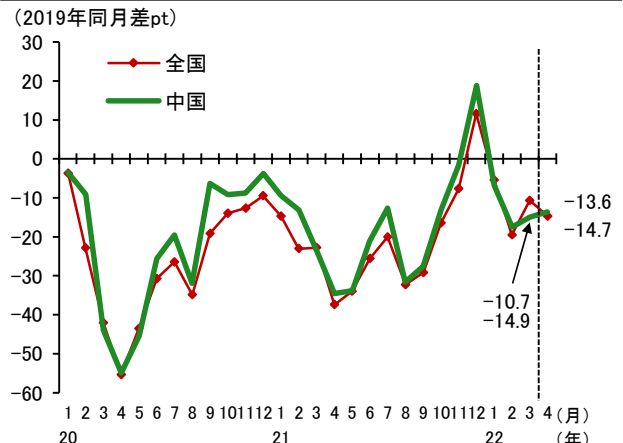


資料：国土交通省東京航空局・大阪航空局「管内空港の利用概況集計表」、鳥取県「鳥取砂丘コナン空港、米子鬼太郎空港の利用状況」、島根県「島根県内3空港の利用状況」

● 宿泊稼働指数 [2019年同月差]

(全国・中国)

- 宿泊施設の稼働状況は、まん延防止等重点措置が3月21日をもって全面解除されたこと等から、3月、4月と緩やかな回復の動きがみられた。
- ゴールデンウィークは、3年ぶりに行動制限のない連休となり、都心から近い行楽地などを中心に好調に推移したと報じられている。



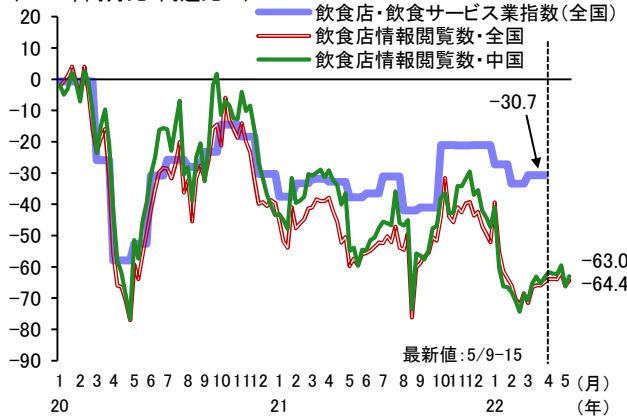
注：宿泊稼働指数は、宿泊施設の日次の空室の水準を指数化したもので、九州経済調査協会が独自に推計している。原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。  
資料：(公財)九州経済調査協会

● 飲食店・飲食サービス業指数、飲食店情報閲覧数 [2019年同月比・同週比]

(全国・中国)

- ・飲食店・飲食サービス業指数は、3月21日をもってまん延防止等重点措置が全面解除されるなど、感染症の影響が緩和する中で、3月は持ち直しの動きがみられた。
- ・飲食店の売上と相関関係が強い飲食店情報の閲覧数をみると、4月以降も持ち直しの動きがみられるが、持ち直しのペースは緩慢なものにとどまっている。

(2019年同月比・同週比%)



資料：経済産業省「第3次産業活動指数」、内閣府・内閣官房 V-RESAS

● 移動人口(市区町村をまたいで移動した人数) [2019年同週比]

(全国・中国)

- ・移動人口は、感染者数の減少やまん延防止等重点措置の解除に伴い、3月以降、全国・中国ともに持ち直しの動きがみられる。
- ・ゴールデンウィークは、改元に伴う大型連休で人出が増加していた2019年同週比でみると減少幅が拡大したものの、3年ぶりに行動制限のない連休となったことから、人出は堅調と報じられている。

(2019年同週比%)



注：移動人口は、指定した時点で市区町村に滞在している人数のうち、推計居住地が他の市区町村である人数

資料：内閣府・内閣官房 V-RESAS

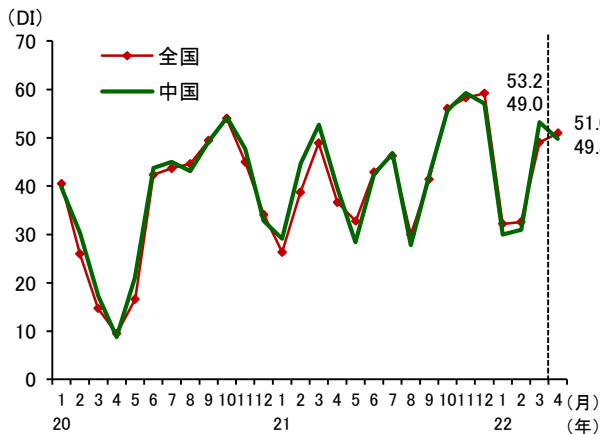
● 景気ウォッチャー調査(現状判断DI、家計動向関連)

(全国) 3月の家計動向関連の現状判断DI(原数値)は49.0(前月差+16.4pt)と大幅に上昇した。3月21日をもってまん延防止等重点措置が全面解除となり、飲食関連を中心に指数が改善した。

(中国) 家計動向関連の現状判断DI(原数値)は、全国と同様、53.2(同+22.2pt)と大幅に上昇した。

【参考(4月)】

DIは全国が51.0(同+2.0pt)、中国が49.8(同▲3.4pt)となった。感染者数の増減度合いでDIに地域差がみられるが、物価上昇に対する懸念は全国共通して多く聞かれた。



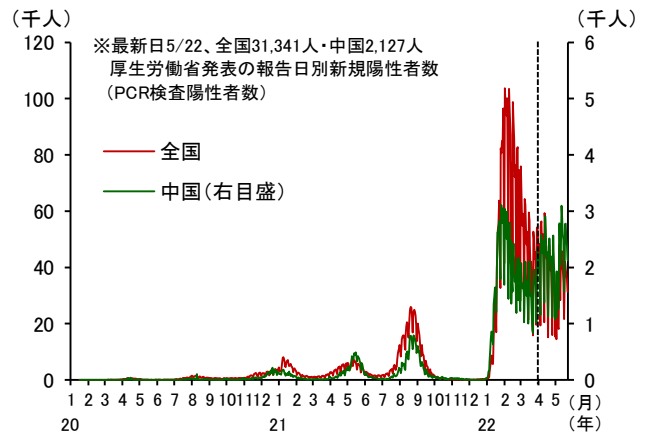
注：原数値、調査期間は毎月25日～月末

資料：内閣府・(公財)中国地域創造研究センター「景気ウォッチャー調査」

● 新型コロナウイルス感染症 新規陽性者数

(全国) 新規感染者数は、一部の地域を除き、概ね減少傾向となっている。直近の動きを地域別にみると、首都圏では昨年夏のピーク時を下回る状況にある一方、沖縄県や宮崎県などでは昨年末からのピークを上回っている。特に、沖縄県における新規感染者数は全国で最も高く、また過去最高の状況となっており、増加傾向は現在も続いている。

(中国) 新規感染者数は、増加と減少を繰り返しており、高止まっている地域もみられる。



資料：厚生労働省 データからわかる「新型コロナウイルス感染症情報」